

下水再生リン入り肥料 始動！

再生リンをJA全農かながわへ提供し、肥料製造を開始します

横浜市では、下水汚泥からリンを回収し、肥料として活用する取組を進めています。

北部汚泥資源化センター内に設置したリン回収施設から回収した再生リンの肥料登録が完了し、JA全農かながわへ提供、再生リン入り肥料の製造を開始します^[参考1]。

製造した肥料は、その効果等を確認するため、市内のほ場^[注釈1]や公園等で試験施肥^[注釈2]を行う予定です。

[参考1] 下水再生リンの肥料利用促進に向けた連携協定を横浜市・JA横浜・JA全農かながわの3者で締結しています。

[注釈1] ほ場：農作物を栽培する農地のこと

[注釈2] 施肥：作物などの植物に肥料を与えること



再生リン搬出の様子（8月26日）

■ 再生リン入り肥料の活用

JA全農かながわにおいて再生リンを原料に、作物全般に使いやすいとされる汎用性の高い8-8-8（窒素8%、リン酸8%、カリウム8%）肥料をメーカー協力のもと製造します。試験施肥を通して効果等を確認し、GREEN×EXPO 2027における積極的な活用などを通じて、市内を中心とした肥料市場への流通、利用促進につなげていきます。

■ 再生リンの概要

国土交通省の下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）において、月島JFEアクアソリューション株式会社と共に「MAPにより脱水ろ液から効率的にリンを回収する技術に関する実証事業」を実施しており、この事業により、リンをリン酸マグネシウムアンモニウム（MAP）として回収、再生リンとして活用するものです。

再生リンは大半を輸入に頼っている化学肥料原料の代替として期待されており、この取組は肥料の国産化・安定供給に貢献するとともに、食糧安全保障の強化や循環型社会の形成等に資するものです。



下水再生リン（左）とPRロゴマーク「はま巡リン」（右）

お問合せ先

下水道河川局マネジメント推進課担当課長 西高 幸作 Tel 045-671-2940



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

